



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2020年9月号)

J P 子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



酷暑の夏が過ぎ、本格的な秋となりました。

感染症対応で出かける機会は少ないと思いますが、

近所の公園や森に出かける機会があれば、“どんぐり”を拾ってポットで育てて下さい。

来年の春に芽が出れば、子どもたちにとって心に残る不思議（wonder）体験となります。

写真は京都市「ときわ幼稚園」さんの活動風景です。

J P 子どもの森づくり運動を象徴する風景ですね。

(目次)

1. 「保育防災アクションマイスター認定講座」アンケート、及び防災活動動画ご提供のお願い
2. J P 子どもの森づくり運動 地域での活動レポート
3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年9月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟

(公社)大谷保育協会

保育環境研究所ギビングツリー

(公社)国土緑化推進機構

N P O 法人 C・C・C 富良野自然塾

(公社)こども環境学会

国際校庭園庭連合日本支部

(一社)日本森林インストラクター協会



1. 防災活動アンケート、及び防災活動動画ご提供のお願い

今や災害列島化したわが国においては、多くのかけがえのない命を預かる保育・幼児教育施設（以下、「保育施設」）における防災対策は待ったなしです。早急に、子どもたちの命を守るための有効な仕組みや方法の構築が求められています。

しかしながら、**そもそも多くの幼児(少)期の子どもたちを預かっている保育施設では通常の防災対策は通用しません。**

また、それぞれの保育施設のおかれている立地環境によって多様な自然災害が想定され、一律な防災活動では対応できません。実効性のある対策としては、それぞれの保育施設に、いわゆる「防災リーダー」を配置し、リーダーが中心になって園全体で保育施設独自の防災の仕組みづくりと防災意識を高めることに取り組むことでしか実現できないと考えます。

そんな状況を踏まえ、J P 子どもの森づくり運動では、2020年度より、保育施設における防災活動（以下、「保育防災」）の普及を目的に、**消防庁アドバイザー鎌田修広氏**をリーダーとして、保育施設に特化した防災のスキルと高い防災マインドを持つ防災リーダーの養成を目指す「**保育防災アクションマイスター認定講座**」（以下、「認定講座」）の仕組みづくりに取り組んでいます。

保育防災における防災リーダーは、単に役職として務めるのではなく、志を持って自ら率先して動いていただかねばなりません。だから「**防災“アクション”マイスター**」なのです。

事務局では、本講座が保育の現場で本当に役立つものとなるために、認定講座の内容を参加園の皆さんと共に検証し、仕上げさせていただければと思っております。

つきましては、以下のことについてご協力いただけますようお願い申し上げます。



1) 防災活動アンケートへのご協力依頼

参加園各位が取組んでいらっしゃる「保育防災」の現状を把握させていただきたいと思います。

お忙しいところ恐縮ですが、別紙のアンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。

* アンケート締切り：2020年10月20日(火)までに、FAX、ないしはメールにて事務局（子森ネット）までお送り下さい。

2) 防災活動動画ご提供のお願い

保育の最前線で活動する保育者にとって、もっとも参考になるのは他園におけるリアルな防災活動事例です。

そのため、事務局では、全国の参加園で取り組んでおられる防災活動の動画を募集し、認定講座の教材・課題として活用させていただければと思います。下記の募集概要で、貴園で行われている防災活動の動画をご提供いただけますようお願い申し上げます。

* 防災動画募集についてはアンケートの結果を踏まえ、「子森通信」10月号にて詳細をご案内申し上げます。

なお、「保育防災アクションマイスター認定講座」の詳細については、2021年2月17日(水)、18日(木)に開催される「**J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2021」**」において発表させていただきます。同集会&研修会については、「子森通信」10月号にてご案内申し上げます。

2. JP子どもの森づくり運動 地域での活動レポート

2020年6月27日（土）に、岐阜県の「浄心こども園」において、地元の“どんぐり”の苗木を植える植樹会が行われました。

1) 参加者数：25家族（73人） 2) 場所：岐阜県油坂さくらパーク内植樹地

3) インストラクター：【植樹】藤 兼量（子森ネット） 【自然体験プログラム】塚原 茂（子森ネット）

“どんぐり”の苗木と共に、村上インストラクター提供の様々な広葉樹の苗木を植樹しました。お父さんが穴を掘り、こども達が腐葉土を足して苗木をていねいに植えていました。



植樹会終了後、自然体験プログラム（ネイチャーゲーム）も行いました。今回のゲームは「ノーズ」と「森の色を探そう」です。園児たちは、探検ループを使って、森の中にあるたくさんの色を探していました。



最後は全員で記念撮影して植樹会を終了しました。



「浄心こどもの城」における活動のインストラクターが、村上森林インストラクターから、子森ネット理事であり福井県大野幼稚園の藤園長先生に交代となりました。植樹会に先立ち、2021年4月23日（木）に、インストラクターの引き継ぎと藤先生による研修会が実施されました。村上インストラクターからは、これまで素晴らしいサポートをご提供いただきました。当日は、杉山園長先生から村上インストラクターに感謝の盾が贈呈されました。村上さん、長い間ありがとうございました。



3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年9月号)

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載します。「子森通信」7月号～9月号は、「生きものが集い、人の心が豊かになる園庭づくり」に取り組んでいらっしゃる小泉造園 代表 小泉昭男さんにお願ひしました。今月は三回目、最終回となります。

園庭は子どもが育てる～園庭は季節を感じる窓～

小泉造園 代表 京都女子大学 非常勤講師 小泉昭男



(先月号からつづく)

3. 五感を感じる ときすます 空間

園庭のものは遊びの要素ですそこには、五感をときすまう環境が大事です。

臭覚としてキンモクセイは10月の初めに咲きます、このにおいを嗅いだら「運動会が始まる」クちなシは梅雨を知らせてくれます。ジンチヨウゲは「年長になる」「小学校に行く」これらの花は街角でも見かけることができます。卒園して街中で香りを嗅いだときに保育園を思い出してくれる仕掛けになります

視覚季節で変わる植物は季節の移行知らせてくれます。また子どもの目線が低いですから出され子どもの目線の高さにあつたところに仕掛けが必要だと思ひます。味覚保育園で取れる果樹は果物屋さんのもとは違ひます。甘み 苦味 などを自分でとり味わうことができます。触角生きものに直接触れることは、相手が生きてゐることに気づくことができます。2歳ぐらいからダンゴムシを手に取りますが、つぶしてしまうことがあります、このことがやがて生きもの大事にすることにつながります。

聴覚 夏の蝉 秋の虫 いろいろな音色で鳴いてくれます。その音色に耳を傾け、子どもたちと共感してあげてください。

日本の蝉は海外では聞かれないメロディーを奏でくれる生きものなのです。

4. 園庭緑化ではなく 遊びの要素

園庭のもので遊びに使えないものは必要ありません。観賞用 見栄え そのようなものは子どもの遊びにはいりません。子どもは遊びの天才といわれますが、そのためにはいろいろなものにみだてられる素材が必要だと思ひます。植物やそれにかかわる生きものは子どもの好奇心と探究心を満たしてくれます。それは自然の多様性と子どもの多様性が重なることができるからです。



(写真提供：小泉氏)

5. 収穫 (野菜・果樹)

畑仕事は収穫が本当の目的ではないと私は思ひます。実るためには必ず生きものがかわります。雑草を取っていると、土のなかかいろいろな生きものが現れます。それらを見つくと子どもたちは虫に夢中になります。それを否定知るのはなく、そのことの発見も含めて収穫だと思ひます。また「いただきます」の意味を感じることができるのも畑仕事の収穫です。

6. 生きもの (いのち) との出会いの場

畑仕事にもつながりますが、「益虫」「害虫」といふことがいわれます。しかし子どもにとって昆虫はすべて宝物です。収穫を目的にはしてないので、ニジュウヤテントウムシのすべて遊びの要素なのです。いまではアゲハやモンシロチョウを飼育観察することは多くの保育園で行われていますが、そのほかにもいろいろな生きものを園庭に呼び寄せる仕掛けをつくり観察してその不思議さに気づいてほしいものです。

身近な小動物の住処 (里山的空間) 植物には必ず生きものがかわります。里山という二次林は自然でない空間を作り出すことができます。本来の自然に比べて多孔的空間を多く作り出しているからです。園庭にもこのような多孔的な空間をつくることができます。たとえば石積みです、園庭に出てきた小石 大石などを積み上げておくとそこを住処とする昆虫が入り込みます。そしてそれらを獲物にする生きものが訪れてくれます。丸太なども積み上げておくだけで、朽木を住処とする生きものが来ます。仕掛けをつくるのが大事なのです。

紙面の都合で割愛した部分もありました。次回の機会があればもう少しお伝えできるかと思ひます。ありがとうございました。